

二〇二二年七月一六日(土)

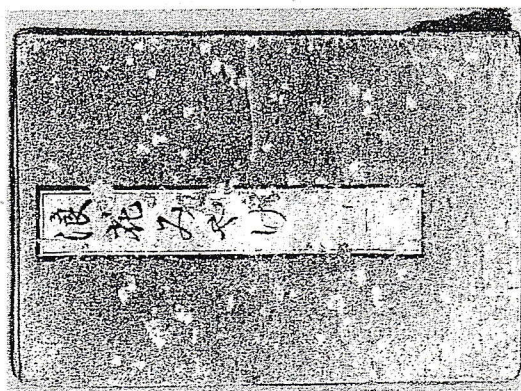
なにわのことは遊び—『浪花みやげ』の豊饒な世界へ—

【講師】大阪教育大学教授 小野恭靖

I はじめに—『浪花^{なにわ}みやげ』の世界—

大阪(坂)は今日の日本のお笑い文化の中心地と見なされていますが、実はそれは近年に始まったことではありませんでした。“^{にわか}俄”に代表されるような江戸時代に興った即興の笑劇がその淵源に存在していたことは比較的よく知られています。しかし、同時に大阪を発信基地とした幕末のことは遊び文化の存在を忘れることはできません。当時我が国の出版業の中心地であった大阪心斎橋の書肆塩屋^{しよししおやきへい}豊兵衛はことは遊びに関連した多種の瓦版を発行しました。そして、それが後に冊子本に整えられて『浪花みやげ』と銘打たれたのです。その中には“しやれ” “なぞ” “判じ絵” “鈍字^{どんじ}”などの豊かなことは遊びの世界が凝縮されています。

江戸時代末期に大阪心斎橋博労町に店を構えた書肆兼草紙屋に塩屋^{しよししおやきへい}豊兵衛があった。営業活動期間はおおよそ文政年間(一八一八～一八三〇)から天保年間(一八三〇～一八四四)にかけてで、様々な書籍を刊行した。



『浪花みやげ』

(小野恭靖『ことは遊びの世界』(新典社)より)

II 『浪花みやげ』所収瓦版に見ることは遊びの種々相

- ① 「しやれ」……「鳥づくししやれ文」(繁丸)、「魚づくししやれ文」(繁丸)
- ② 「口合」……「大新板 国づくし絵口合」、「大新板 いろはもんく絵口合」、「役者づく

し口合文句」

- ③「無理問答」……「新板 当世無理問答」、「神道仏道むりもんだふ 初編」(今井泰丸)、「神道仏道むりもんだふ 後編」(今井泰丸)、「さけさかなむりもんだふ」、「喰物生類むり問答 初編」(今井泰丸)、「喰物生類むり問答 二編」(今井泰丸)、「喰物生類むり問答 三編」(今井泰丸)、「喰物生類むり問答 四編」(今井泰丸)、「座禅おどけ問答」、「大わらひ座禅問答」
- ④「判じ絵」……「大日本六十四州絵考」、「新板 年頭状かんがへ」、「青物乾物尽絵考」(茂野)、「大坂町づくし絵かんがへ」、「御所車絵考」、「春さめ絵かんがへ」
- ⑤「なぞ」……「新板 なぞづくし」、「なぞなぞ智慧の海」、「おかげ参道中の口合新謎」、「風流わらひ新謎づくし」、「新謎わらひ袋」、「しんぱん 一口ばなし」(今井泰丸)
- ⑥「文字遊び」……「大しんぱん どん字づくし」、「どん字づくし 二編」、「当世風流文字くどき通人ことば」、「文字晝違見立相撲」、「小野 嘘字尽」(式亭三馬)
- ⑦「その他」……「世間通言鳥づくし見立」(南地亭)、「新板 ふくづくし 初編」(今井泰丸)、「餅でないもちづくし見立角力」(今井泰丸)、「新板 もりづくし見立相撲」(今井泰丸)、「くりづくし見立相撲」(今井泰丸)、「てぐらまぐらくらづくし見立相撲」(今井泰丸)、「のみ舛よひ舛酒問答舛づくし」、「浮世けんでないけんづくし見立角力」、「重言見立大相撲」、「新板 六七三四八八大宝恵」(南地亭)、「大新板 附会三才図会 初編」、「大新板 附会三才図会 二編」、「大新板 附会三才図会 三編」、「人名附物見立相撲」

III “無理問答”の世界

- うそづくのをてつぼうとはイカニ、まことをしんけんといふがごとし。
- 天にほうきぼしとはイカニ、地にそらまめあるがごとし。
- はげあたまをやくわんとはイカニ、しりをおかまといふがごとし。
- あづきに大なごんといふ位はイカニ、鳥にも五位さきのあるがごとし。
- 水をわかすにゆをわかすとはイカニ、米をたきてめしをたくといふがごとし。
- 女子の名にあらすしておみきとはいかに「さけの方問」、男の名にあらすして源五郎ふな
いふがごとし「さかなの方答」。
- こまにあらすしてよふまはつた酒とはいかに「さけの方問」、まわりもせねど車急びいふ
がごとし「さかなの方答」。
- 木にのぼらずしてきる田ひことはいかに「神道の方問」、長き手にあらねどまんこう大師
といふがごとし「仏道の方答」。(初編)
- 宮にあらすして新町にてんじんのあるはいかに「神道の方問」、しん町にあらす寺にため
ふ寺のあるがごとし「仏道の方答」。(初編)

○やかましいかゝを山の神とはいかに「神道の方問」、まゝたきのおなごしゆをほそつといふがごとし「仏道の方答」。(初編)

○にぎりめしにあらずしてむすぶの神とはいかに「神道の方問」、にしめにせねどいぼろといふがごとし「仏道の方答」。(後編)

○ほくもせずして犬神とはいかに「神道の方問」、竹やぶにすまねどとらやくしといふがごとし「仏道の方答」。(後編)

○星のひかりにあらねどそら豆といふがいかに「食物の方問」、かけさしもせねどくまに月の輪あるがごとし「生類の方答」。(初編)

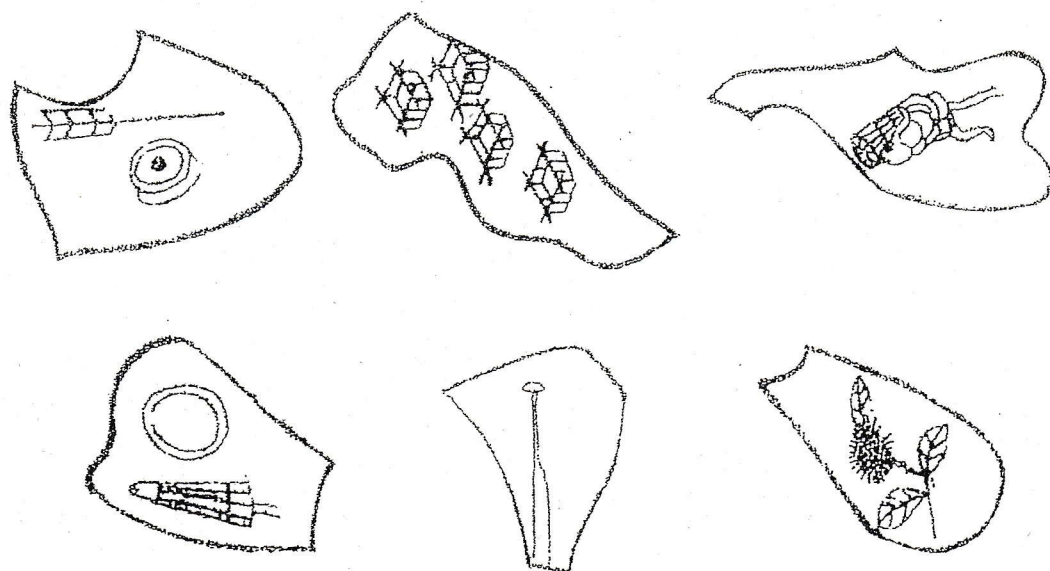
○みちのりにあらずしてやき芋を八里半といふがいかに「食物の方問」、あるきもせねど魚にいつりあるがごとし「生類の方答」。(初編)

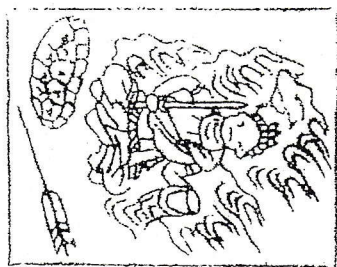
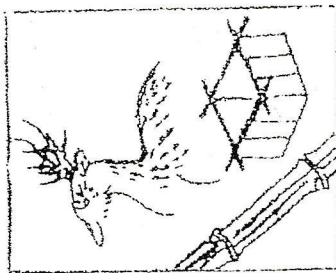
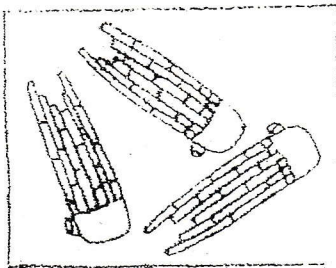
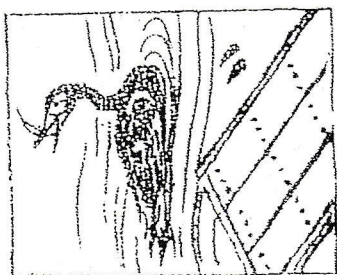
○みそにいらすてかうじといふがいかに「食物の方問」、かうしいれねどみそせうといふがごとし「生類の方答」。(二編)

○さきもせずしてぼたんもちといふがいかに「食物の方問」、ちりもせねどさくらだいといふがごとし「生類の方答」。(二編)

IV “判じ絵”の世界

「大日本六十四州絵考」





V “なぞ”の世界

「新板 なぞづくし」

- ・「冬の ^{さといす} 鶯 とかけて、破れ障子と解く。心は〇〇を待つ」
- ・「安い ^{まだじやう} 饅頭 とかけて、初めての ^{ななぐら} 門口 と解く。心は〇〇〇〇」
- ・「眼鏡屋の細工とかけて、よい娘と解く。心は□にかける」
- ・「豆腐屋物惜しみとかけて、紅葉川と解く。心は〇〇くれない」
- ・「好き合うた仲とかけて、上町の井戸と解く。心は〇〇で深くなる」
- ・「鴨とかけて、二月堂と解く。心は〇〇〇〇」

「なぞなぞ智慧の海」

- ・「お多福の面とかけて、谷の桜と解く。心は両ほうが高くて〇〇が低い」
- ・「浄土宗とかけて、俯く ^{うつむ} 稲 と解く。心は〇〇〇〇らみらり」
- ・「ぎやまんの細工とかけて、砂地の畑と解く。心は〇〇通る」

「おかげ参道中の口合新謎」

- ・「左京大夫道雅とかけて、抜け参りの相談と解く。心は人づてならで□〇〇〇〇〇〇」
- ・「元良新王とかけて、抜け参りの追手と解く。心は身を□〇〇〇〇〇□〇〇〇〇〇□〇」

「風流わらひ新謎づくし」

・「箱入り娘の恋とかけて、舞子の浜と解く。心はあをあと〇〇ばかり」

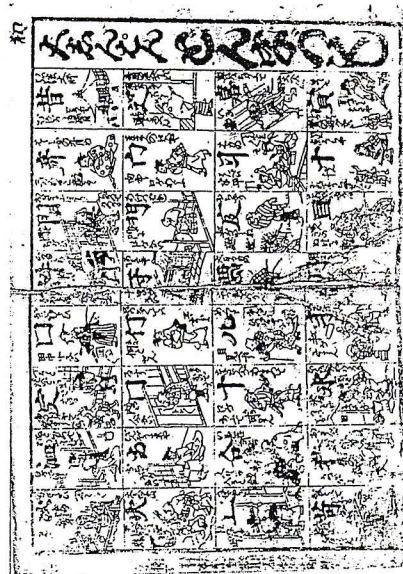
「しんばん 一口ばなし」(今井泰丸)

・「四十七人の内でおもい人は □□□□□」

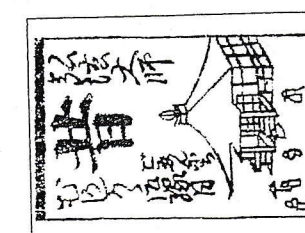
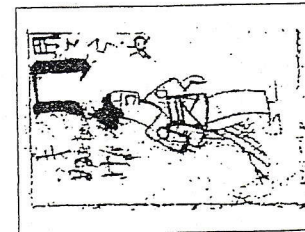
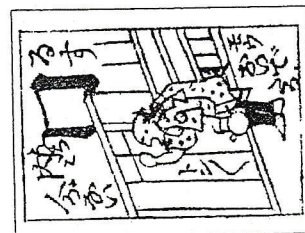
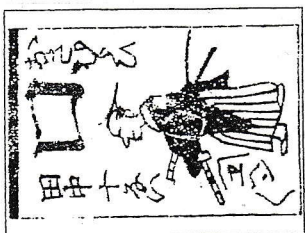
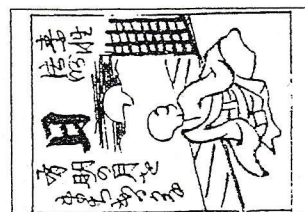
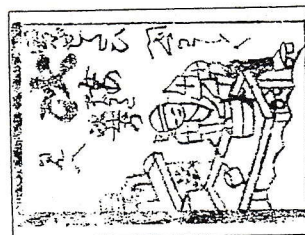
・「よる寝る女子じゃ お〇〇」

VI “鈍字”の世界

「大しんばん どん字づくし」



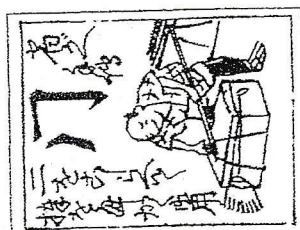
『大しんばん どん字づくし』



「どん字づくし 二編」

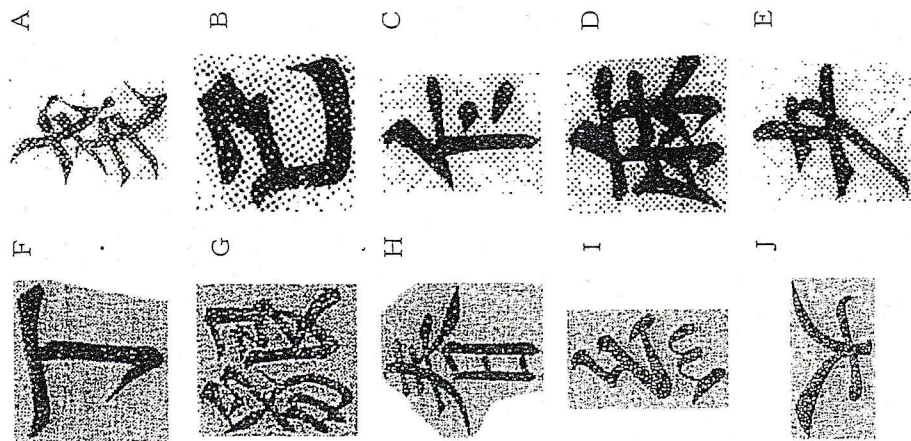


『どん字づくし 二編』



【参考】鈍牙九齋鈍丸『どんじしう 初編』（塩屋喜兵衛ほか板）

長谷川小信画『鈍字集 初篇』（富士屋政七〈大坂心齋橋安堂寺町北へ入〉板）



- ① 四季 ② 洗濯 ③ 雨替 ④ 浪花 ⑤ 荒れ畑 ⑥ 独り者
⑦ 近所同士 ⑧ 城下の繁昌 ⑨ 長閑なひと ⑩ こけてわななく

VII その他の文字遊びの世界

「当世風流文字くとき通人」とは」

- ・「いちちよんばねのいち木 一□」
- ・「とうはちぼうばねくよこのちよん ○○○」
- ・「いちしのとうはち ○○」
- ・「とりさんずいのとりくじゅう □○○」
- ・「にじゅうはちのしじゅう ○○○」

「文字書遣見立相撲」

- ・「矢を□トかくの」
- ・「藤を□トかくの」
- ・「汁を□トかくの」

VIII “脚韻”遊びの世界

「世間通言鳥づくし見立」(南地亭)

- ・「武士は□とり」「舟には□とり」「一夜の○どり」「因幡は○○どり」「鹿島に○とり」「□えた娘はぼとり」「阿呆が○○とり」

「新板 ふくづくし 初編」(今井泰丸)

- ・「娘は○○ふく」「夏は□ふく」「山伏は□□ふく」「大神宮は□でふく」「ひだるいのは○○ふく」「虚無僧は□□ふく」「取求めるは□をふく」「養釜は○○ふく」

「餅でないもちづくし見立角力」…(今井泰丸)

- ・「百人一首は○○もち」「二けたは□もち」「怪気は□もち」「ひろくは□もち」

「奴は□もち」

「新板 もりづくし見立相撲」(今井泰丸)

- ・「神主は□もり」「虫は○もり」「妊娠は○○もり」「天気は○もり」「権人は□がもり」「蕎麦は□もり」「平の○よ○り」

「くりづくし見立相撲」(今井泰丸)

- ・「百姓は□づくり」「奥州産はか○くり」「発条はか○くり」「酒入るは○○くり」「桑名の名物は○○くり」「朝寝は○○くり」

IX “重言” (同義反復文) 遊びの世界

「重言見立大相撲」

- ・「御御堂様」「新米の□」「神前の□」「用水の□」「風呂屋の□□」「元朝の□」

伝承童謡

- ・「いにしえの昔、武士という侍が、ある山中の□の中、馬から落ちて□□して、女の□人に笑われて、赤い□して赤面し、腹かき□つて切腹し……」

X “数字の語呂合わせ”の世界

「新板 六七八九八八大宝恵」(南地亭)

- ・「本因坊の□」「俳諧の□」「南禅寺の□もん」「人の□せ」「多田の□十」「虎屋も万□」「穴探しの千□九」「御屋敷の御内室は□三」

Ⅺ まとめ—大阪（坂）と『浪花みやげ』

- ・江戸時代末期に大阪（坂）では、ことば遊びを中心とした一枚摺りが多く板行されていました。そのなかには当時流行していた見立番付の形式を用いた例もあります。それらの一枚摺りを集めて貼り合わせ、冊子本とした書物が『浪花みやげ』でした。

『浪花みやげ』は言語（日本語）による知的な笑いを提供する書物として人気を博しました。今日でも日本全国の古典籍を収める図書館に、数多くの『浪花みやげ』が收藏されているのはその証です。

実に大阪（坂）は、江戸時代末期には日本の言語文化の中心地として、全国にことば遊び情報を発信していたことになります。そして、お笑い文化の中心地が今日に至るまで大阪（坂）であり続ける基盤がその時に築かれていたことを最発見する必要があります。

【参考文献】

- ◎小野恭靖『ことば遊びの文学史』（一九九九年・新典社）
- ◎小野恭靖『ことば遊びの世界』（二〇〇五年・新典社）
- ◎小野恭靖『ことば遊びへの招待』（二〇〇八年・新典社）
- ◎小野恭靖『ことばと文字の遊園地』（二〇一〇年・新典社）
- ◎小野恭靖『さかさことばのえほん』（二〇〇九年・鈴木出版）
- ◎小野恭靖「^{にじり}「附会」という名のことば遊び—^{こじつばきせんそうし}『附会季撰草紙』『大新坂 附会三才図会』『新版 附会三才図会 初編 紹介—」（『日本アジア言語文化研究』第二五号〈二〇二二年三月〉）
- ◎小野恭靖「ことば遊びの見立番付—^{ひょうばんのくものみだずもふ}『人名附物見立相撲』紹介—」（『日本アジア言語文化研究』第二六号〈二〇二二年三月〉）